

園名 桜井市立第2保育所

はばたくなら③ひまわりを育てる活動
～豊かな表現力を目指して～

5歳児 5月～9月

取組について

○本園では、目指す子ども像を『友だちと一緒にいきいきと遊ぶ子』とし、一人一人が安心して生活することを基盤とした上で、感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で表現していく力を育ててほしいと願っている。また、乳児期の育ちが土台となり、幼児期の子どもの姿に大きな影響を与えるということを、保育者自身が自覚し、年齢の発達に合った年間計画を立て、子どもの可能性を最大限に引き出せるような保育内容に取り組んでいる。

○今回は、3メートルほどの高さに生長するひまわりを育てる活動を通して、“小さい種から自分より背の高いひまわりを育てた”という達成感を感じてほしいという願いのもと、進めていった。その中で、子どもの心がどのように動いたのかということをつぶやきや考察を交えたり、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」と照らし合わせたりしながら検証を行った。

実践事例

10の姿

子どもの言葉

気づき、考察

< 種植え >

大きく育ちますように！

ウカキ



種にししま模様があるよ

みんなの背を超えるくらい大きくなることを知らせると、興味をもつ姿が見られた。

本当に育つのかな？と不思議に思う子どももいた。



➔ 育たない種(枯れた種)が出てきました

水やりしたのに、、、足りなかったのかな？

なんで？どうして？

悲しそうな子どもに、新しい種をすぐに渡そうか少し悩んだ。

イ、ウカキ、コ

➔ しかし、“育つのが当たり前”ではなく、自然界では芽が出ない、枯れるという事があるという捉えを保育者がすることで、子どもに素直に伝えることができた。

成功体験ばかりを重ねるのではなく、起こった事象を子どもと考えることで、自然界に興味をもったり、気持ちの面で成長したりするきっかけとなる事例だった。これ以降さらに興味や関心をもって、世話をするようになった。

次は育つかな？

そうなんだ！

< 折れる >

保育者以上に生長を楽しみにしていた子ども。この活動に対して、主体的に関わっているということを改めて感じた。

ああ、、、折れた、、、

せっかく育ったのに！



< 開花 >

咲いた！きれいやで！
友達にも教えよう！

背が高い！
本当に大きいなあ！



ア、イ、ウカキ、ケコ



ぼくの顔より大きい花やなあ！

一人一人が言葉にして、咲いた喜びを伝え合う姿があったり、「こんなひまわり見たことない」と、心から驚いたりする様子も見られた。達成感に満ち溢れていた。

<構成遊び>

→ “形を知る”“思いを形にして共感する”という目的で構成遊びを取り入れた。



上に貼って、次は下に貼って、...

花びらいっぱいやったで

四方八方に花びらが広がっていたり、花びらが重なり合っていたりすることなどをイメージすることができた。



<種取り>



種、つまってるなあ

種がたくさんあるねん

種を根気よく10個ずつ数えていくと、「いっぱいある」と、驚く姿があった。1つの種から、こんなにたくさんの種ができるという自然のサイクルを、この経験を通して感じることができた。

1200個もあったで

<絵画活動>

実体験をしたり、過程を大切に捉えたりしてから描く絵は、子どもからの思いや気付き、つぶやき、実体験の話がたくさんあり、自信をもって表現する姿が見られた。



種いっぱい獲れたから、種描こう



枯れたひまわりもあった

背の高いひまわり描こうかな



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿



乳児期での活動は幼児期の発達につながっている⇒乳児期での活動の重要性

| | | | | |
|------------|-----------------|-------------------------|-----------------|--------------|
| ア. 健康な心と体 | イ. 自立心 | ウ. 協同性 | エ. 道徳性・規範意識の芽生え | オ. 社会生活との関わり |
| カ. 思考力の芽生え | キ. 自然との関わり・生命尊重 | ク. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | ケ. 言葉による伝え合い | コ. 豊かな感性と表現 |

(まとめ)

・種が発芽しないという経験から、「発芽することが当たり前」という保育者の固定概念があるということに改めて感じた。残念そうにする子どもに、自然界では当たり前の出来事であることを伝えたり、成功体験ばかりを味わうのではなく、「なぜ?」「どうして?」という探求心の芽生えにつながるきっかけと捉えたりすることが大切であると考察した。

・印象に残った体験や経験は子どもの中に必ずあり、ひまわりの絵を描くと、枯れたひまわり、種が詰まっているひまわり、背の高いひまわりなど、一人一人が感じたり、印象に残ったことを、素直に絵として表現したりする姿が見られ、活動一つ一つに願いをもって進めていく大切さを改めて感じた。

(成果)

・ひまわりを育てる活動を通して、「どうやったら大きく育つのか」ということを主体的に考える姿が見られた。また、ひまわり以外でも、生き物、野菜なども大切に世話をする姿も見られ、少しの変化にも興味をもち、友達に伝えたり、「どうして?」と、疑問に思い、調べたりする姿も増えた。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に結び付けていくことで、子どものつぶやき一つ一つにも大きな意味があり、そこに保育者がどのような物的環境、人的環境を整えていくのかを考えるきっかけにもなった。

(課題)

・今後も活動に対して“こんな姿に育ってほしい”という願いをもち、見通しをもって考えたり、子ども一人一人の心の動きを読み取りながら、活動や環境の再構築を意識したりして、保育を展開していきたいと思う。引き続き主体的に遊ぶ子どもを目指して、思いに寄り添う、共感する、考えるなどの経験を得られるように、活動や環境構成を考えていきたい。